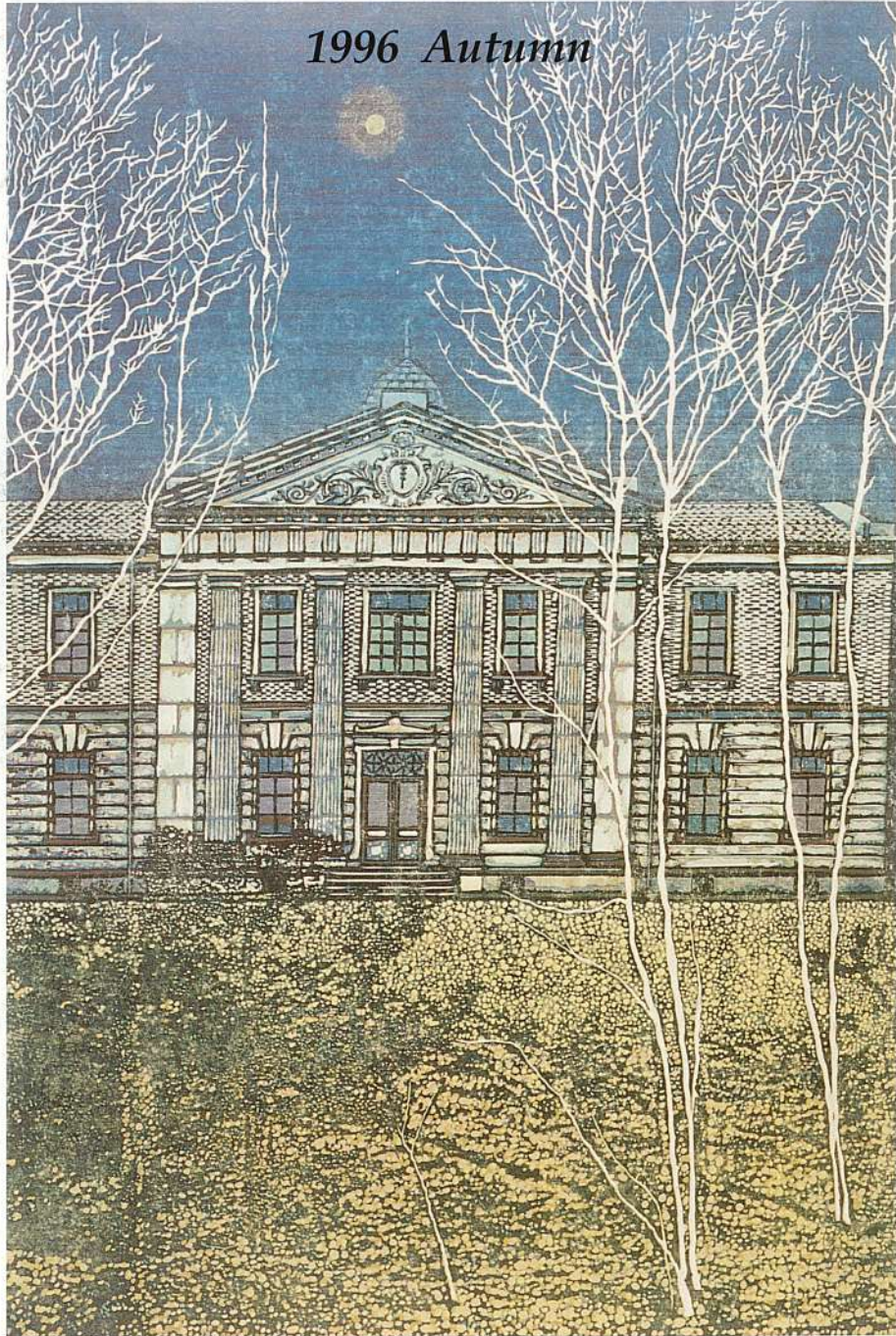


明治村

だより

1996 Autumn



秋号
Vol.5

平成八年十月十日発行(季刊)

明治村だより 第五号



平成八年十月十日発行
『明治村だより』第五号(平成八年秋)
発行 博物館明治村
愛知県大守市大字内山一丁目
電話〇五八八六七〇三三四 千四八四
東京事務所
東京都千代田区紀尾井町三三三
文藝春秋ビル新館七階
電話〇三三三二六三二五五六六 千〇二二
製作 求龍堂

『明治村だより』
第六号(平成九年初春発行のお知らせ)
発行時期 平成九年一月(予定)
申込方法 『明治村だより』第六号ご希望の旨及び
ご住所・お名前を明記の上、送料一九〇
円分の切手とともに封書にてお申し込
み下さい。

目次

秋の特別企画
体験、魅る明治：：：：： 2

再現、明治の室内：：：：： 3

特別展「明治の洋風家具」：：：：： 7

近代日本の皇室行事と家具様式 小泉和子 9

秋の明治村：：：：： 13

〈表紙・前田守「明治はるあき」晩秋―内閣文庫〉

明治村秋の特別企画
体験、甦る明治

- ◆再現、明治の室内
- 西郷従道邸〈重要文化財〉
- 三重県庁舎〈重要文化財〉
- 帝国ホテル中央玄関
- 長崎居留地二十五番館
- 常設展示公開中
- ◆特別展「明治の洋風家具」
- 11月24日まで
- ◆西郷従道邸内テイルーム開設
- 11月24日まで

西郷従道邸 居間

西郷従道邸 応接室

再現、明治の室内

陸軍、海軍、農商務などの大臣を歴任、政府中枢にいた西郷従道（西郷隆盛の弟）が、内外の要人用の迎賓館として明治十年代に自邸内に建てた優雅な洋館。フランス人建築家レスカスの設計とされ、カーテンボックス、金具などの内部装飾品も殆どフランスからとりよせたものと思われまます。今回、応接室、居間、食堂、婦人室、書斎、寝室の六室を再現しましたが、貴族の接客の場としての性格や建物全体の雰囲気や考慮し、室内は明治宮殿や赤坂離宮、鹿鳴館などで使われた宮廷家具を中心に整えました。各室に配された主な家具類は次のとおりです。

西郷従道邸〈重要文化財〉



ソファ（西郷従道邸寝室）



ソファ（西郷従道邸応接室）

今回の特別企画「体験、甦る明治」では、新しい試みとして、その名の示すとおり、本格的な体験型の展示スタイルを取り入れています。企画の中心となる「再現、明治の室内」は、建物の内部を本来の用途に応じて再現、西郷従道邸では宮中や鹿鳴館で用いられた宮廷家具、三重県庁舎、帝国ホテル中央玄関ではそれぞれ当時実際に使われていた椅子や机、長崎居留地二十五番館は英国スタイルの日常家具といったように、室内にそれぞれの雰囲気や調度を置き、実際に使っていたであろうものです。建物には本来内部に家具や調度類が揃い、そこに人々が生活することを前提に造られたものです。外観や間取り、装飾を見るだけの鑑賞者の立場から、そこで生活した人へと身をおきかえることにより、その建物の良さや設計者の工夫、さらに明治時代の暮らしや空間といったものが、より身近に、そしてより正確に感じとっていただけたらと思います。さらに、西郷従道邸内にはテイルームを開設、明治の高級家具を使っての飲食も楽しんでいただけます。家具についても、見た目のデザインや材質だけでなく、その良さが直接肌で感じられるよう、再現された室内はもちろん、特別展「明治の洋風家具」でも使い心地を試していただける体験スペースを大きくとりました。また、前記四棟のほか、東松家住宅〈重要文化財〉や森鷗外・夏目漱石住宅などでも、再現部の拡充や内部の公開を行っています。明治村では、今回を第一弾として、今後も建物内部の再現やその活用を順次進めてゆくことにしています。



ソファ(三重県庁舎正庁)



三重県庁舎 知事室

○知事室(二階)

- 知事執務机 三重県庁使用
- ロッカー 三重県庁使用
- 決裁書類棚 三重県庁使用
- 肘掛け椅子 宮中使用、キャスター付

○正庁(二階)

- ソファ 宮中使用、真鍮装飾
- 三人掛ソファ 宮中使用、真鍮装飾
- サイドテーブル 赤坂離宮使用、真鍮装飾
- 花瓶 宮中使用

○応接室(二階)

- 長椅子 赤坂離宮使用
- 肘掛け椅子 赤坂離宮使用
- テーブル 宮中使用
- 花台 赤坂離宮使用

※関係資料は三重県から提供いただきました。



三重県庁舎 正庁



決裁書類棚(三重県庁舎知事室)

三重県庁舎(重要文化財)

明治四年の廃藩置県により県が誕生、当初は既存の建物を庁舎に利用していましたが、開明的な県令(県知事)は競って洋風庁舎の新築にかかりました。この三重県庁舎は、県令・岩村定高の計画により、地元の棟梁・清水義八の手で、明治十二年に完成しました。西洋建築の外形をまねた擬洋風建築と呼ばれるものですが、当時の官庁建築の典型的な構成になっています。今回は、明治二十年頃の部屋配置に従い、中枢部である知事室、正庁(儀礼的な接客の場)、応接室の三室を再現、室内には明治期に知事室で使われていた家具のほか、地方洋風化のシンボルでもあった県庁舎にふさわしく、宮廷家具も配しました。各室に置かれた主な家具類は次のとおりです。

○応接室(二階)

- ソファ 宮中使用、木部螺鈿装飾
- テーブル 宮中使用、フランス製
- テーブル 宮中使用、蒔絵菊花模様
- ピアノ 宮中使用、日本楽器製

○居間(二階)

- 長椅子 鹿鳴館使用、竹塗り蒔絵
- 小椅子(だるま椅子) 鹿鳴館使用、竹塗り蒔絵
- 小椅子(だるま椅子) 鹿鳴館使用、蒔絵桜花模様
- サイドボード 宮中使用

○食堂(一階)

- 肘掛け椅子 赤坂離宮使用、皮貼菊花紋章入り、フランス製
- テーブル 宮中使用
- 食器棚 宮中使用、菊花紋章入り
- サイドボード 宮中使用、フランス製

○婦人室(一階)

- 小椅子(だるま椅子) 鹿鳴館使用、蒔絵桜花模様
- テーブル 宮中使用
- 飾台 宮中使用、蒔絵桜花透



西郷従道邸 食堂



西郷従道邸 書斎

○書斎(一階)

- ライティングデスク 赤坂離宮使用
- 回転椅子 宮中使用
- 寝椅子 宮中使用
- サイドボード 宮中使用、フランス製

○寝室(一階)

- ベッド 宮中使用、スチールパイプ製
- ソファ 宮中使用、フランス製
- 化粧台 宮中使用
- 洗面用具 宮中使用

※卓上を飾る食器類はノリタケより提供いただきました。

ライティングデスク(西郷従道邸書斎)



西郷従道邸 寝室

帝国ホテル中央玄関

今世紀最大の巨匠とされる米国人建築家フランク・ロイド・ライトの設計により、大正十二年、東京の日比谷に建てられた帝国ホテルの中央玄関部分。立体的な優れた空間構成、幾何学模様を彫刻した大谷石や透かしテラコッタによる建物内外の独創的な装飾など、名建築として世界にその名を知られています。今回、国際一流ホテルの雰囲気と、その華麗で複雑な内部空間を十分に楽しんでいただけるよう、帝国ホテルで使用されていたライトデザインのテーブル、椅子などを配してロビー、ラウンジ、ギャラリーを再現したほか、フロント用のカウンターも設けました。主な家具類は次のとおりです。



テーブル(帝国ホテル中央玄関)

テーブル 帝国ホテル使用、ライトデザイン
 サイドテーブル 帝国ホテル使用、ライトデザイン
 椅子 帝国ホテル使用、ライトデザイン
 フロアスタンド 帝国ホテル使用、
 ライトデザイン(複製)

※ライトデザインの食器類は帝国ホテルから提供いただきました。



椅子(帝国ホテル中央玄関)



長崎居留地二十五番館 食堂



サイドボード(長崎居留地二十五番館居間)

長崎居留地 二十五番館

安政五年の五ヶ国条約により、長崎は横浜、函館とともに最初の開港場となります。開港場には外国人が住むための居留地が設けられましたが、この住宅は長崎港を見下ろす高台・南山手の居留地に明治二十二年に建てられました。幕末からの外国人住居に多く見られる特徴を有し、植民地住宅的な雰囲気を漂わせています。建設当初は、「お雇い外国人」として日本に招かれ、長崎造船所の支配人を務めたスコットランド出身のJ.F.コルターが住んでいました。今回は、遠い故国をなつかしみながら暮らす外国人家庭の居間と食堂を、複製した家具類を中心に再現しています。各室に配された主な家具類は次のとおりです。

- 居間(二階)
 - 書棚 ジョージアン様式(複製)
 - セッティー チップンデル様式(複製)
 - 肘掛け椅子 カントリースタイル(複製)
 - 食堂(一階)
 - 食器棚 アダム様式(複製)
 - 小椅子 リージェンシー様式(複製)
 - テーブル 宮中使用
- ※卓上を飾る食器類はノリタケより提供いただきました。

●室内再現の様子は次号で詳しくお知らせします。

特別展 明治の洋風家具

第一会場 家具の歴史展示 三重県庁舎一階風俗展示室

建築と家具とは密接な関係があり、家具を備えて建物はじめて人間が生活できる空間となります。これは本来西洋人の感覚であり、日本の伝統的建築様式から見ますと、室内装飾というものの比重は低く、家具などもさして必要とされていませんでした。

明治の時代になると欧米文化が移入され、洋風建築が建てられるようになってそれに合わせて当然のように洋風家具が出現しました。最初は外国からの輸入品でまかなわれていましたが、やがて国内でも製作されるようになり、大正時代以降になると一般の人々にも洋風生活が浸透し、機械化による家具の量産化が図られて椅子やテーブルが普及しはじめました。ここでは、幕末の居留地における洋風家具のはじまりから、明治の官廷家具をはじめさまざまな場所で使われていた家具を紹介し、大正期の文化住宅における家具の普及に至る歴史的發展を概観することによって、現在につながる私達の住まい方と家具について考える機会としたいと思います。



横浜絵 正写仏蘭西人



赤坂離宮の椅子

展示構成

- 一、居留地の家具
我が国における洋風家具は居留地の外国人が使用していた家具類を模倣することから始まったとされます。函館・横浜の各居留地に関連する資料によってその一部を紹介いたします。
- 二、官廷家具
明治宮殿・赤坂離宮・鹿鳴館などで使用されていた家具と関連写真を展示して官廷家具の特色を紹介いたします。
- 三、大衆家具
明治の時代の公共建築は早くから洋風建築が取り入れられ必然的に内部も椅子や机が配置されました。民間でも写真館や床屋、病院などで洋風家具が使われ始めました。錦絵や写真等の展示でその様子をあらわします。
- 四、洋家具商と職人について
洋風建築の増加に伴い、室内で使う洋風家具の需要が増えたため、従来の和家具職人らが模倣と試行錯誤を繰り返しながら洋風家具に意欲的に取り組み官廷家具から大衆家具まで国産化を可能にしていきました。錦絵・写真等の展示でそのあゆみを概観します。

五、文化住宅と家具の普及

明治後半になると都市部ではサラリーマン層が増え、一般の住宅にも洋風化が徐々に普及しました。大正時代の博覧会では文化住宅のモデルハウスが展示され、人々の注目を集めました。洋風家具の需要に応じて、百貨店では店頭で一般向けの家具が並ぶようになり、より一層身近なものとなりました。博覧会と関連写真等の展示で新しい住まい方を紹介します。

六、建築家のデザイン家具

建築と家具の密接な関わりから、建築家による家具の設計も行われてきました。フランク・ロイド・ライトと遠藤新、武田五一の家具を展示し、彼らの理想とする室内装飾を紹介します。



諸工職業鏡 テーブル椅子製造

第二会場 家具の体験的展示

三重県庁舎一階中央応接所

宮廷家具のうち長椅子を展示します。



長椅子(宮中使用)

第三会場 家具の体験的展示

三重県庁舎一階特別展示室

本来家具は、一部の装飾家具を除いては実用に供するものです。今回は初めての試みとして、椅子に実際に掛けることができるといふ体験を主眼とした展示を行います。

宮廷家具のコーナー

明治宮殿・赤坂離宮などで使われた椅子二十点を展示します。

建築家のデザイン家具コーナー

武田五一・遠藤新のデザインによる椅子七点を展示します。



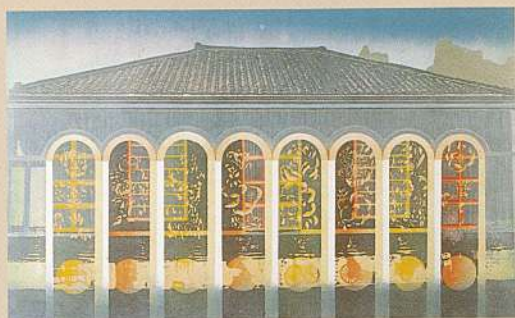
竹製椅子(宮中使用)

秋の明治村

10月・11月

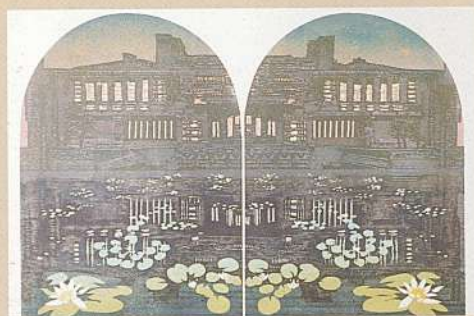
*都合により変更する場合がありますので、詳細については事前にお問い合わせ下さい。

前田守一 木版「明治はるあき」展



明治はるあき—皇宮警察署別館—

12月1日(日)まで
三重県庁舎2階
特別展示室



明治はるあき—帝国ホテル中央玄関—

斬新な造形感覚と卓抜な技法で詩情あふれる世界を描き、多くの人々を魅了している木版画家・前田守一氏は、映画監督・五所平之助に傾倒、その叙情句や映画作品を主題とした数々の作品でも知られています。その一つに連作「明治はるあき」があります。

五所平之助最後の監督作品となった「明治はるあき」は、昭和43年、明治百年を記念して、安藤鶴夫の原作により明治村で製作した糸あやつり人形劇映画で、明治の風物詩を情感豊かに謳いあげ、文部



明治はるあき—ふみづかい—森鷗外・夏目漱石住宅

省芸術祭奨励賞に輝きました。前田氏は、平成3年に「明治はるあき」による木版画の個展をはじめ開催、その後も、「明治はるあき」やその舞台となった明治村、さらには明治の風俗といったものを、独特の感性でとらえなおした作品の制作を精力的に続けておられます。

この度、前田氏よりシリーズ作品32点のご寄贈を頂きましたので、今回、これを記念してその全てを一堂に展示いたしました。前田芸術の全貌を明らかにすることはできませんが、その一端なりともご堪能いただければ幸いです。



旧碓氷線第三橋梁<重要文化財>(明治26年、群馬県松井田町)

●写真展 近代土木遺産を訪ねて

技術造形家の仕事

10月14日(月)まで
三重県庁舎二階展示室
主催 社団法人日本土木工業協会
監修 篠原修(東京大学工学部教授)
この写真展は、一九八二年以来、社団法人日本土木工業協会の機関誌「建設業界」の表紙やグラビアページを飾ってきた数百点の作品(三沢博昭氏撮影)のなかから、私たちの生活や営みを支えてきた明治以降の近代土木構造物に焦点をあて、技術、景観、デザインに優れたものを選定して展示するものです。



琵琶湖疏水南禅寺水路閣
(明治22年、京都市左京区)

これら近代の土木構造物は、当時の土木技術者が欧米先進国の社会資本にその整備の思想や技術・デザインを学び、単に欧米の模倣に終わることなく、優れた感性とつぎることのない情熱によって築き上げたものといえます。
今回の展示を通して近代土木構造物の文化的意義が広く一般に理解され、ともに建設事業が果たしてきた役割や、これからの国土のあるべき姿を思い描いていただくことに役立つことができましたら幸いです。



桃介橋<重要文化財>(大正11年、長野県南木曾町)

写真コンテスト入賞作品展

11月30日(土)まで 東山梨郡役所二階
平成7年7月から8年6月までに明治村写真コンテストにご応募いただいた作品六四六点の中から選ばれた、明治村大賞二点、特選四点、入選十一点、佳作二十点を展示。明治村ならではの四季折々の景観をとらえた情感あふれる優れた作品をご覧ください。



明治村大賞 太田巖



明治村大賞 佐藤重雄

秋のミュージアムコンサート

11月3日(祝) 13時〜14時
パロック音楽(フィオーレピアノトリオ)
11月4日(休) 13時〜14時
パロック音楽
11月10日(日) 13時〜14時
宗教音楽(ヴィクトリア室内合唱団)
11月24日(日) 13時〜14時
宗教音楽(東山グリーンエコー)
聖サビエル天主堂
音響効果のすばらしい教会でコンサートを
お楽しみ下さい。

秋まつり

11月2日(土)〜4日(休)
おみこしが練り歩き、屋台が軒を連ねます。
ほかにも、大道芸、和太鼓、古道具市など、村祭りの雰囲気がいっぱい입니다。

大道芸「南京玉すだれ」

10月20日(日)、11月2日(土)〜4日(休)、
9日(土)、10日(日)、17日(日)、23日(祝)、
24日(日)
札幌電話交換局横

和太鼓パフォーマンス「尾張太鼓」

10月13日(日)、27日(日)、11月3日(祝)、
4日(休)
札幌電話交換局横

ガラスワーク教室<有料>

10月15日(火)、11月19日(火) 11時〜15時
工部省品川硝子製造所
色ガラスからイヤリングやペンダントなど、オリジナルのアクセサリーを作ります。

機織り実演

10月、11月の日曜日
鉄道寮新橋工場・機械館
明治時代の機を使って、布を織ります。
スタンブラリー<有料>

第2・第4土曜、日曜、祝日

明治村内のスタンブを全て集めると、素敵な賞品が待っています。

クイズブラリー<有料>

第2・第4土曜、日曜、祝日
明治村に関するクイズを解きながら、明治村をまわります。

人力車体験乗車<有料>

10月、11月の日曜、祝日
京都七條巡査派出所前
明治時代のタクシー・人力車の乗り心地を体験できます。

秋の樹木染め教室<有料>

10月12日(土)、11月2日(土)、9日(土)、
16日(土)、23日(祝) 10時〜15時
千早赤阪小学校講堂
明治村に自生する樹木から採取した染料を使って、ハンカチやTシャツを染めます。
初級/ハンカチ、中級/糸糸、上級/シヨールまたはTシャツ(中級、上級は要予約)

村内バス新登場

明治村では、ガイドシステム付の村内バスを新たに導入、従来の電動車にかわり10月から運行を開始しました。19人乗りのゆったりしたバスで村内見学をお楽しみ下さい。



早茶<有料>

10月の日曜、祝日 11時〜16時
11月の日曜、祝日 11時〜15時
西園寺公望別邸「坐漁荘」
抹茶とお菓子
でおくつろぎ
下さい。



冬の明治村<予定>

うし年郷土玩具展

12月23日〜平成9年2月12日
三重県庁舎一階特別展示室

クリスマスコンサート

12月22日 ハンドベル(師勝はなの樹幼稚園)
12月23日 メサイア(ヘンデル協会有志)
12月24日 ハンドベル(金城学院高等学校)
12月29日 教会で聴く第九コンサート(飯林)
(聖サビエル合唱団)

聖サビエル天主堂

正月催事

1月1日〜5日

★休館のお知らせ

本年より12月31日を休館日とさせていただきます。
おまらがえないようお気を付け下さい。